

孫の手通信



第8号

平成21年7月31日

玉川孫一郎と歩む会

TEL/FAX: 050(5549)6005

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>

玉川孫一郎、就任一年を振り返る

公約の達成状況と今後の展望

第二回(全三回)

●新しいまちづくりのプロジェクト

【巡回バスの運行】

これはお年寄りや子ども、免許を持っていない人などが買い物や病院に気軽に行ける町にしたいということから公約に掲げました。今年度は国の全額補助八百万円を活用して基礎調査を実施し、町に最適な公共交通計画を作成します。そしていよいよ来年度から、巡回バス、あるいは調査結果によってはデマンドタクシーを試行運転する予定です。これには最大三年間、国から半額の補助がきます。

【バリアフリーのまちづくり】

「バリアフリーのまちづくり協議会」を組織して、進めています。六月八日には生活道路の実態を調査するため、警察署の人や町民の方と歩いてみました。それらを踏まえ、駅エレベーターに限らず、バリアフリー化重点実施区域を設定しました。

【駅東口の設置】

JRには一駅一改札口の大原則があつて、今まで協議のテーブルにつくことすら難しかったのですが、通勤や通学

で上総一ノ宮駅を利用して近隣市町村の首長、地元選出の国会議員など各関係者の皆さんとともにねばり強い交渉を続けてきた結果、現在JRと協議を進めています。自動改札、SUICA(スイカ)といった技術革新を活かせば簡易な改札口も実現可能です。試算も出てきていますし、役場には既に東口の模型もあります。今後、東口開設を願う住民の声を広く集めて、JRに働きかけてまいります。東口ロータリーでフリーマーケットやイベントを開催して、東口の開設をアピールすることも考えています。

【妊婦検診助成】

妊婦検診助成ですが、私の責任で予算をつくった今年度からは十四回完全実施します。

【その他の子育て支援策】

四月から東浪見小学校の特別教室を利用して「東浪見学童保育わんぱくクラブ」を開設いたしました。また保育所に入っていない子供たちの子育てを支援するため、愛光保育園内に子育て支援館「おおぞら」が完成しました。子育ての相談など気軽に利用してください。

【国民健康保険税】

昨年、国民健康保険税は三〇%以上の大幅な引き上げになつてしまいました。国民健康保険税の値上げ抑制という公約と違つたと皆さんからお叱りを受けています。この原因は、ここ数年医療費が上昇しており、引き上げをしない場合、約一億五千万円の赤字が当初予測されたため、このうち約五千万円を一般財源からくり出し、残りの一億円の負担を皆さんにお願いしたものです。しかし昨年は予測に反し医療費が低く推移したため、九千万円の繰越金が生じました。そこで、今年六月の議会でも、保険税の税率を改正し、わずかですが引き下げました。

【後期高齢者医療事業】

国の後期高齢者医療制度により七十五歳以上の方の人間ドック・脳ドックの助成は廃止されていましたが、今年度より町単独の助成を復活しました。

【海辺のトイレ】

汚水を外に流さない国内初のエコトイレが釣ヶ崎海岸に

完成しました。ありがたいことに市民ボランティアの皆さんが清掃してくれています。この社会実験をぜひ成功させて、九十九里の海岸全域にこのエコトイレが広まるようにしたいと思っています。

【海岸浸食】

海岸浸食については所管が国や県なので、対策を要望し続けています。現在進めている海岸のヘッドランド、人工堤防だけでは不十分のため、片貝や太東岬にたまっている砂を運んできて一宮の海岸に戻す、県の養浜事業というのが今年から始まります。またあの広い砂浜が戻ってくればと期待しています。

【市民農園】

農業委員会の協力による市民農園貸し出し希望農地の意向調査を実施した結果、二十九名の方から貸し出し可能な農地の申し出がありました。トマトのウイルス感染への懸念などから、万全を期すべく県農業指導員と農家の意見交換会を行い、アドバイスを受けて、現在開設準備中です。

【長生病院(救急医療体制)】

全国でも医師数の少ない千葉県において最も医師不足が深刻なのがここ長生郡市。特に救急医療は切実な問題です。長生病院については、長生郡市七市町村で負担金を増やし、医師と看護師を雇い上げて、今年五月、夜間救急の空白日を一応は解消できました。でも実は外科・内科だけで、小児科・産科はあいかわらず絶対的医師不足で懸案のままです。これは長生郡市レベルだけではなく、県・国レベルでの対応を強く求めていきます。

【新規定住の促進】

新規定住の具体的な相談がしやすくなるよう、まちづくり推進課に専門窓口を設置しました。

【住民提案事業】

住民提案事業の募集を今年から始めましたが、うれしいことに七件の応募がありました。公開プレゼンテーションを経て、委員会審査により全件採択されました。予算二百万円は、町長報酬二〇%カット分がその財源です。

(第三回につづく)

関連する新聞記事をご紹介します。



長

玉川 孫一郎氏

一宮町船頭給で1946年3月生まれ。東北大学法学部卒。元県東上総県民センターバス釣りと野球観戦。ロッテファンで、千葉マドで応援することもあるという。62歳。

生まれ育った一宮町船頭給地区は一九五四年、一松村から一宮町に分村編入した。編入前、同地区は大もれにもめて大混乱。通っていた小学校もなく、少年時代の玉川さんは一時、寺子屋で学んだという。結局、住民投票で分村編入が決まった。この体験が「合併などの重要問題は、住民に直接賛否を問うべきだ」との持論の原体験だ。

県職員を退職した玉川さんは二〇〇七年、長生都市の合併

町発展へ巡回バスを
住民が主役の町政へ

問題に住民投票を求め、一宮町の市民団体「未来の上総一宮をつくる会」に参加、署名集めに走り回った。住民主体の町づくりのために新しい指導者が必要と考えた同会は、玉川さんに町長選への出馬を依頼。同会を中心にするボランティアを支えられて、手作りの選挙戦を展開した。

「大きな山が動いた。だが、目の前にはさらに大きな山がある」。今後の町政を問われ、顔を引き締める。住民投票はさるころから、町の発展のため、高齢者や観光客のための巡回バスを走らせたいと抱負を語った。

平成 20 年 5 月 28 日 千葉日報

バリアフリー新法もとに
一宮住民が町づくり提案
県内初

一宮町の「バリアフリーのまちづくり研究会」(可世木博親代表)は30日、玉川孫一郎町長あてにバリアフリー新法(高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律)に基づく「まちづくり推進の要望」を提出した。同法による住民提案は県内初で、玉川町長は「実態調査に裏付けられた有意義な提案だ。住民の意思を吸い上げて、安心して移動できる町にしたい」と話している。

同日は早急にバス会社、JR、県、警察、住民代表による協議会を立ち上げ、バリアフリーの基本構想をまとめたという。

同研究会は昨年秋にJR上総一ノ宮駅構内や中心街を調査し、歩道が狭く、段差が多しなどの実態を明らかにした。

提案はその集大成で、可世木代表は「車阿婆先の町づくりが行われてきた。高齢化が進んでおり、ぜひ、早期に改善してほしい」と期待している。

平成 20 年 7 月 31 日 朝日新聞

ブログ『孫の手通信』
こちらもどうぞご覧下さい。

日頃の業務に関する記事や町でのできごとなどを掲載しています。

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>



エコトイレの完成を祝って行われた99ピーチエコフェスタ—一宮町の釣ヶ崎海岸

「エコトイレ」がお披露目された。エコフェスタは、エコトイレのしゅん工を記念し海岸環境保護団体「99ピーチカード」などが実施し、フリーマーケットなど約三十店が出店。約千五百人が訪れた。エコトイレ前のステーションでは、よこいやフラダンスなどが披露された。エコトイレは、水の安全保障を検討するNPO法人「次世代水回り研究会」(東京都文京区)が開発。地元住民から募った寄付金約千二百万円で設置され、ボランティアを募集し管理することになっている。排水を浄化、消毒して循環利用することで必要な水を大幅に減らし、汚水を外に出さないといった利点がある。

日本初のエコトイレお披露目

一宮・釣ヶ崎海岸でエコフェスタ

一宮町の釣ヶ崎海岸で二ピーチエコフェスタ」が十九日、フリーマーケットわれ、汚水を外に流さななどの合同イベント「99日本初の循環型トイレ

平成 21 年 4 月 30 日 千葉日報

エコフェスタで行われたお披露目会では、玉川孫一郎町長や酒井茂英県議らがあいさつ。次世代水回り研究会の山田正代表(左)は「日本初のエコトイレを、厚総、日本全体、開発途上国へと広めていきたい」と話した。

